第２回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和２年５月22日（金）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 11団体・企業
【開催結果】

議案１ 第１回会議における意見について

【直近の情勢の変化】

（主な意見）

・ 一部、製材工場が金曜日の稼働を止めており、週休３日が現実味を帯びている。
・ 本州の安いスギ製品が梱包・パレットに食い込んで来ており、道内製品は価格下落のおそれ。
・ 建築材はこれまで比較的影響が小さかったが、住宅契約の減少などで減少率が拡大。
・ コロナやオリンピック延期などの影響で紙の減産に伴い、チップの集荷量が相当落ちる見込み。
・ 事業者の手持ち資金の不足が近々に想定されている。

議案２ 今後の対応の方向性について

【今後の影響に対する見通し】

（主な意見）

・ 世界的にコロナウイルスが収束しないと経済全体が回らない。下げ止まる着地点が見えない状況。
・ 収束後も経済活動が抑えられ、カラマツ需要が２割程度落ちて常態化することを危惧。
・ トドマツの売り上げが２割落ちると予想。状況によっては、もっと厳しくなる。
・ 住宅は、８月以降、さらに深刻な状況が見込まれている。
・ 今は製品が溢れているが、輸入材の動向次第では逆に足りなくなることも想定される。
・ ホームセンター向けのDIY材が足りないが、道内の工場で対応し切れていない。
・ 年度末の原木のだぶつきは10万m^3では済まないことが考えられる。
・ 今は、利益より企業の存続を優先させる必要がある。

（まとめ）

・ 製材工場等における原木消費量の減少幅の見通しを約３割として、今後の検討を行う。

【対応方向の検討】

（主な意見）

＜金融対策＞
・ 体力の無い事業者が活用できる、融通の利く資金対応が必要。
・ 林業･木材産業が中小企業経営力強化ファンド（２次補正）の対象となるような働きかけが必要。
・ 税負担が大きい木材産業に対する手当てを考えるべき。

＜雇用対策＞
・ 持続化給付金の給付額引き上げ及び要件の緩和を希望する。
・ 高性能林業機械の整備に対する助成の要件緩和など、設備投資のきっかけが必要。

＜森林整備＞
・ 道有林の立木販売における搬出期限の延長を希望する。
・ 森林整備事業は中断せず、継続することが必要。

＜流通対策＞
・ 林業事業者や運送会社が事業を継続できるよう、手厚い助成が必要。
・ 木材の生産量と滞留量を予測し、比較した上で、スケール感を考慮した対応をすることが必要。

＜その他＞
・ 様々な支援策に関する十分な周知を事業者に対して行うことが必要。
・ 回復後も見据えた対策が必要

（まとめ）

・ 対応方向（案）については概ね了承。
・ 本日出た意見は整理の上、必要な対策を検討するとともに国への要望へ反映していく。